

鷲峰山高台寺は、慶長年中に太閤秀吉公北の政所御建立の菩提所なり。古は雲居寺にして自然居士住給ひける、宗旨は禪（濟家）。中興開基は三江和尚なり。

仏殿の本尊は釈迦仏、迦葉、阿難を安置す。達磨大師の御厨子は政所公の御車を用ひらる。方丈の唐門は秀吉公の船楼をもつて営しといふ。客殿南向にして、襖の画は土佐光信、狩野永徳、弘意了溪等なり。彫物彩色美麗を尽せり。本尊は千手観音を安置す。小方丈には秀吉公の詠給ひし和歌十首を額にかくる、聖護院道澄法親王の御筆なり。開山堂の額は重関と書して雪月堂の筆。天井には政所公御車の上屋を用ひらる、三江和尚常光院殿の像を安置す。祖堂よりの廊下を臥龍といふ、雪月堂の額あり。これに登れば秀吉公北の政所の御魄舎あり。長押に三十六歌仙をかくる、画は土佐光信、和歌は八条智仁親王の筆なり。其外内張の画は狩野古右京の筆多し。山上の傘亭は千利休が好む所なり。岩栖洞は良の山腹にあり、古の岩栖院の旧跡なり。

当寺は大木の桜数株ありて、妖艶たる花の盛は園中に遊宴を催し、春を惜むのともがら多し。又秋の頃も萩の花いみじうみやびやかにいろへて、衆人のこゝろを動す、是当境の佳観なり。〔姥桜は山下の坊中にあり。天満宮は其南に隣る〕